

東北 三陸沿岸の Iron Road を訪ねる 震災後初めて 三陸沿岸を再訪 2014.6.7-6.9

1. 世界産業遺産登録を目指す日本近代製鉄発祥の地「釜石」 近代製鉄発祥の地「橋野・大橋鉄鉱山」を訪ねる 2014.6.7.
2. 発掘中の古代の製鉄遺跡 山田町船越「焼山遺跡」発掘現場を訪ねる 蝦夷の鉄生産工房地の謎を解くかも?? 2014.6.8.
3. 三陸鉄道に乗って20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 龍泉洞・北緯40度地球村 普代 2014.6.7.&6.8
4. 普代から久慈・八戸 車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜 有家海岸 & 種差海岸 2014.6.9.
5. 震災後3年 生活復興を進める三陸沿岸の街の今三陸の街の今 コメントなしのPhoto集 2014.6.7.-6.9.

2. 発掘中の古代の製鉄遺跡 山田町船越「焼山遺跡」発掘現場を訪ねる

鉄のロマン「三陸は蝦夷の鉄生産工房地ではないか？」そんな痕跡を求めて 2014.6.8.



現在発掘中の10世紀後半から11世紀の製鉄遺跡
山田町船越「焼山遺跡」



古代の製鉄遺跡(一部)
山田町には300を越える製鉄遺跡があり、薙手刀も出土と聞く
古代の大製鉄地帯 蝦夷の鉄生産基地のロマンを秘めている



薙手刀3振り他多数の刀剣類を副葬
8世紀蝦夷の古墳群 山田町 房の沢古墳群

東北 三陸沿岸の Iron Road を訪ねる 震災後初めて 三陸沿岸を再訪 2014.6.7-6.9

2. 発掘中の古代の製鉄遺跡 山田町船越「焼山遺跡」発掘現場を訪ねる

鉄のロマン「三陸は蝦夷の鉄生産工房地ではないか？」そんな痕跡を求めて 2014.6.8.



【 内 容 】

2.1. 釜石から山田町船越へ

代行バスで 震災・大津波の被災地を走り抜ける しっかり眼に焼き付けておかねば…

2.2. 船越半島の付け根を南から北へ大津波が半島を横切っていた

2.3. 道の駅山田から少し国道を戻って 船越の集落から焼山遺跡へ

2.4. 古代平安時代の製鉄遺跡「焼山遺跡」2014年緊急発掘調査現場見学

2.5 道の駅「やまだ」へ戻って 船越半島の付け根「浦の浜」へ降りる

古代の製鉄遺跡が300以上ある山田町 宮古花崗岩帯から流れ出た砂鉄が浜にある

2.6. 大津波の傷跡が残る山田町を走り抜けて、宮古へ

【参考】 古代三陸で行われた鉄生産技術について

三陸山田湾沿岸の古代製鉄関連遺跡

7月8日天候は霧雨 三陸沿岸のIron Road Walk 2日目の概要

霧雨ですが、今日はいよいよリアス式海岸が続く三陸沿岸を釜石から北へ。大震災の津波が直撃した被災地。現在も山田線復旧の見込みは建たず、代行バスが釜石-山田-宮古をむすび、その北は4月に全通した三陸鉄道が久慈へと沿岸を結ぶ。

また、リアス式沿岸アクセスの切り札として 虫食い着工されていた三陸沿岸縦貫道路の建設が最優先で進められている。この復興道路がめぐる山裾の高台は古代から山や浜から出る砂鉄を使った製鉄遺跡の宝庫。午前中に山田町船越で緊急発掘調査が進められている古代製鉄遺跡「焼山遺跡」の発掘地現場を見学し、かつて蕨手刀を手にも大和と戦った蝦夷の鉄の謎に迫れる地検がえられれば……

その後、午後は宮古から「三陸鉄道」に乗車して、20数年前に訪れた岩泉・普代など北三陸沿岸のIron Roadを訪ねる。宿はその時泊まった普代黒崎の国民宿舎が取れているので、足の向くまま気の向くまま三陸のIron Roadを歩く。気持ちを引き締めてあるかねば……と。

一番の興味は、古代大和の東北征伐の一因と言われる北上山地に眠る「金の山」。大和と蝦夷の攻防に大きくかかわったのが、仙人峠の名が示す厳しい北上山地で隔てられ、製鉄資源帯でもあった三陸沿岸ではないか……と。東北での製鉄技術流出を恐れ、厳しく統制管理していた大和。Ⅲな時代に蝦夷たちは日本刀のルーツというべき、優れた蕨手刀を持って戦った。蝦夷たちは、大和とは異なる製鉄技術のルートを持ち、その蝦夷の鉄生産基地が古代の製鉄遺跡が数多くあり、蕨手刀も出土しているこの三陸ではないかと。

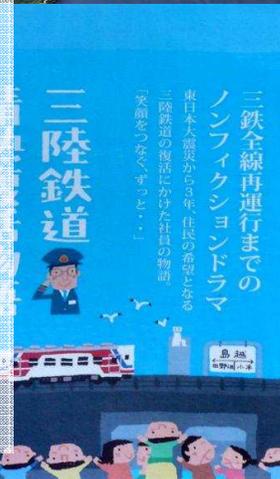
「発掘中の古代製鉄遺跡現場が今だったら見られる」と聞いて、新たな知見が得られるのではないかと胸ワクワクです。

また、代行バスから乗り継いで 三陸鉄道に乗るのも楽しみ。20数年前岩泉・龍泉洞から三陸沿岸に出て、満員の三陸鉄道の列車に乗ってふっと思いついて降りた普代。「北緯40度地球村普代」の言葉が印象に。また、翌日久慈のたたら館を訪ねる中で、「Iron Road」の言葉とイメージができた懐かしい地。今日はどうなるか 風来坊。まずは しっかり被災地を目に焼き付けつつ、山田町船越の製鉄遺跡へ向かう



三陸沿岸のIron Road

三陸は古代 蕨手刀を手にも戦った蝦夷の兵器庫・製鉄地帯
古代からたたら製鉄跡が点々と続く三陸海岸
山には岩鉄 川には餅鉄 浜には砂鉄 砂鉄浜が点々と
久慈から八戸には大量の下ハ砂鉄層もある
これは海底に堆積した砂鉄が隆起して出現したもの
また、釜石の山中 大楢・楢野は洋式高炉が立ち並び
近代製鉄発祥の地
そして、三陸の海は魚の宝庫
三陸の森が海を育てるといいますが、
その一因に豊富な鉄の流れ込みがあるという



緊急の発掘調査が進む三陸沿岸

【参考】 山田町船越の古代の製鉄遺跡「焼山遺跡」発掘現場を訪ねる



復興事業推進のため三陸沿岸で進む遺跡発掘調査

岩手県埋蔵文化財センター所報「わらびて」129号 2014.2.28より

三陸沿岸は古代からの鉄鉱石・砂鉄の資源帯であり、海岸段丘の山裾には古代から点々と製鉄遺跡がある。今 復興道路や住宅建設などの震災復興事業推進の発掘調査の中で、数々の遺跡発掘調査が行われ、数々の製鉄関連遺跡の遺構・遺物が明らかになっている。中でも 山田町の山裾からは 次々と9か所にも及ぶ古代の製鉄遺跡が発掘され、古代の製鉄炉など古代三陸の製鉄が解き明かされるのではないかといわれる。山田町船越の湾を臨む丘の斜面から羽口が差し込まれた形のままで古代の製鉄炉が発見されたと聞いて、釜石から宮古への代行バスの途中にある山田町船越の「焼山遺跡」そして 船越浜の砂鉄を見学してきました。



発掘調査が進む古代の製鉄遺跡 山田町船越「焼山遺跡」 2014.6.8.

◆ 三陸沿岸復興事業推進で進む幾多の遺跡の緊急発掘調査で古代三陸の製鉄がバールを脱ぐ

やけやま

● 焼山遺跡 (山田町) の製鉄炉

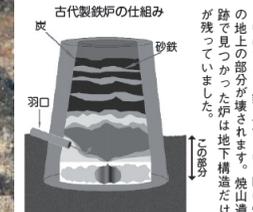
焼山遺跡は、JR船越駅と山田道路との間に挟まれた、南東に開けた谷の北側斜面地に位置しています。

写真は、古代の製鉄炉です。炉の直径は約60cm、円形に掘り込まれています。底には鉄滓が付着しています。左側には鞴から空気を送り込むための羽口が見えます。羽口の太さは約8cmあり、先端が炉内に出るように設置されています。当時の製鉄炉(3頁:想像図)は中から鉄を取り出すために、ほとんどが壊されますから、このように羽口が操業当時の位置をとどめた状態で出土することは珍しいと言えます。羽口の設置位置や角度など、この製鉄炉は多くの情報を私たちにもたらしてくれます。

古代から続く岩手の鉄文化の謎に迫る貴重な資料です。



焼山遺跡の製鉄炉



三陸沿岸のIron Roadを訪ねるにあたって、インターネット検索で、岩手県埋蔵文化財センター所報「わらびて」129号に三陸沿岸沿全域にわたり、復興事業と関連した緊急発掘調査されていることが紹介されていました。その特集には、山田町他で続々と古代の製鉄遺跡の緊急発掘調査が行われ、昨年の調査で羽口が差し込まれたままの製鉄炉。また、同じ山田町沢田Ⅲ遺跡でも古代繰り返し製鉄が行われたことを示す重なり合った製鉄炉。そして、北の野田村平清水Ⅲ遺跡からは蕨手刀1振が出土したことが紹介されていた。

三陸沿岸全域にわたって急ピッチに進められている遺跡発掘調査で、東北古代の製鉄地帯、三陸沿岸のIron Roadがクリアーになる。気になっている古代蝦夷の製鉄も明らかになるかもしれない。

照会の電話に「山田町焼山遺跡は現地説明会が終わったばかり。調査作業が続いていて、今だったら発掘現場がそのまま見学できる」と教えてもらって、遺跡の場所などを確認。さっそく山田町船越にある古代の製鉄遺跡「焼山遺跡」を是非訪ねようとインターネットで、周辺の遺跡資料や地図、そしてアクセス情報を集め、山田町訪問のスケジュールを組む。

釜石から山田町を経由して宮古へ結ぶ山田線は現在も不通であるが、遺跡のすぐそばの山田町船越の道の駅まで釜石から代行バスがあり、また、ここから、さらに北へ宮古行の代行バスに乗り継ぎ出来るれことが判ってラッキー。釜石から山田までバスで50分ほど、早朝のバスに乗れば、ゆっくり製鉄遺跡を見学して、午後には宮古から三陸鉄道に乗れる。うまくアクセスあれば、龍泉洞へも行って、普代へ行ける。問題は雨、降ったりやんだりならば最高と……

11・12世紀の製鉄遺跡

沢田Ⅲ遺跡

蝦夷の古墳群 房の沢Ⅳ遺跡
8世紀 藤手刀など43点が出土

山田湾

8世紀後半の製鉄遺跡

上村遺跡

10世紀後半から11世紀の製鉄遺跡

焼山遺跡

平安時代の製鉄遺跡

山ノ内Ⅱ・Ⅲ遺跡

平安前期(8世紀～9世紀末)の製鉄遺跡

田の浜館跡

山田町には370を超える製鉄関連遺跡があり、
現在緊急発掘されている遺跡も9つにのぼると聞く

船越湾

Data: SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO

山田町の古代製鉄 300を超える関連遺跡より 今回調べた関連古代製鉄遺跡をプロットしました

Google e

東北太平洋側沿岸 三陸沿岸のIron Road 震災後初めて 三陸沿岸を再訪 2014.6.7-6.9.

発掘中の古代の製鉄遺跡 山田町船越「焼山遺跡」発掘現場を訪ねる

鉄のロマン「三陸は蝦夷の鉄生産工房地ではないか？」

2.1. 釜石から山田町船越へ

代行バスで 震災・大津波の被災地を走り抜ける
しっかり目に焼き付けておかねば・・・

三陸沿岸のIron Road

三陸は古代 藤手刀を手に戦った蝦夷の兵器庫・製鉄地帯
古代からたたら製鉄跡が点々と続く三陸海岸
山には若鉄 川には餅鉄 浜には砂鉄 砂鉄浜が点々と
久慈から八戸には大量のトバ砂鉄層もある
これは海底に堆積した砂鉄が隆起して出現したもの
また、釜石の山中 大楯・楢野は洋式高炉が立ち並ぶ
近代製鉄発祥の地
そして、三陸の海は魚の宝庫
三陸の森が海を育てるといいますが、
その一因に豊富な鉄の流れ込みがあるという





山田線不通のため、並行する国道45号線を代行バスに乗り、被災地の中を眼を凝らしながら走り抜ける 2014.6.8.



10世紀後半～11世紀頃
平安時代の製鉄遺跡「焼山遺跡」
復興事業に伴う緊急発掘中の遺跡

山田町 船越半島

吉里吉里

大槌

鵜住居

釜石

山田線不通のため、並行する国道45号線を代行バスに乗り、被災地の中を眼を凝らしながら走り抜ける 2014.6.8.



土砂降りの雨 釜石市役所前 7:50発 道の駅山田行の代行バスで出発



復興が始まったといいますが、山裾の高台には数多くの仮設住宅がありました 2014.6.7.



釜石の市街地をぬけて、鶺住居地区に入って



国道45号 鶉住居川を渡る 三陸道 (大船渡・気仙沼方面無料区間入口)



国道45号 大槌町 マスト前へ 大槌の街に入る



国道45号 小槌川岸 大槌の街を眺める マスト前へ
一度歩いたことがある大槌町ですが、街が原に 山田線の駅も探せない



大槌町になくってはならない地元商業施設「シーサイドタウン マスト」
甚大な被害を受けて再開も危ぶまれたが、街の強い要望に応え、11年12月22日に復活を果たし、
「大槌町復興まちづくり情報プラザ」など新たな復興拠点だと聞きました。





大槌川を渡って大槌の街を後に この大槌川・小槌川・鶴住居川が流れだす山中は 鬼伝説が残る古代からの鉄の資源帯であり、古くからのたたら製鉄地帯 昨日行った洋式高炉跡橋野も鶴住居川の奥。また、小林家の製鉄絵図もあり。
2002年 この大槌の岸から これらの山々を眺めたことがある。

◆ 2002年大槌を訪ねた時に知った **大槌町に伝わる鬼伝説**
しおはまやすみ・船橋暉男著「遠野上郷大槌町物語」 柴田弘武著「鉄と俘囚の古代史」より引用



小鎚川・大槌川 概略



大槌町(2002年)

「小鎚川の川下より川上に向いて左の山を葡萄森という。土地の人これをブンタ森と呼び、鶉の住居村との境をなす。この山裾に大和高取より移り住みし鍛冶屋あり。いつの頃より、毎夜この家の仕事場を窺い見る鬼が現われ、やがて屋の柱をゆるすなどの狼藉を働く。鍛冶屋ついに怒り、手に持ちし大槌・小鎚にてその鬼を叩きしという。



(小鎚 蕨打直 小林家に伝わる製鉄絵巻より)

鬼は頭を打ち割られ、大いなる声を発して飛び上がり、そのはずみにて屋根を突き抜け、山奥目指して逃げ行きぬ。

鬼は逃走の途次も小鎚川中流の蕨打直にて川前の一軒の家に打ち当り、その家を壊し、山向こうの橋野の方へ去れり。鍛冶屋は手負いせる鬼の行方突きとめんと……弓箭を携えてやまに入る。されど鬼の行方ついに分明ならず。後に橋野人の伝えしは橋野の山奥、笛吹峠に近き山中、片羽山といえる山の麓にて、鬼の仰向きになりて死せるを見たりと。この地を誰いうとなくアオノキの地という。今日の青ノ木なり。

鍛冶屋はその後家業に精出さんと思ひ立ちしも、その手に大槌・小鎚を持つたびに打ち殺せし鬼の思い出されて気色悪し。ついに鍛冶を廃業せんと鬼を打ちし大槌・小鎚を家の前を流れる川中に打ち捨てり。

鉄にて作りし小鎚はその川底に沈み、木にてつくれる大槌はその川面に浮き、流れて海へ出でしが、後ふたたび潮により岸に戻され、一つ北の川筋の河口へ漂い着けりという。

土地の人、誰言うとなく小鎚の沈みし川を小鎚川、大槌の漂い着ける川を大槌川と呼びならわすようになれりとぞ。」



大槌の街を抜けた峠道で
こんな高いところまで浸水したのかと



大槌から崖がつつく波板海岸の丘の上よく整備された道を走ると間もなく「道の駅」やまだの標識がでてきて、ここを出れば船越半島が西へ突き出す船越。終点である。焼山遺跡へは一つ手前の船越のバス停からが、近いのですが、様子が判らぬので道の駅の終点まで行く。



8:37 釜石からの代行バスの終点 山田町船越の「道の駅やまだ」到着
ここからはバス会社が代って、さらに宮古へ行く代行バスが接続している。
接続と言っても乗り継ぎはなし。予想通りですが、日曜日で11:45発の宮古行までバスはなく、
ゆっくりとこの船越にある古代製鉄遺跡「焼山遺跡」を見学できる。
この国道45号の道路の右下側が西へ突き出た船越半島 左手の山裾の少し手前の造成中の
丘が目指す「焼山」。少し戻って、船越の集落の中から山へ向かう

2.2. 船越半島の付け根を南から北へ大津波が半島を横切っていた

沿岸高台の山裾を走る国道45号線で山田町船越の道の駅まで来たので、船越の沿岸部の津波の傷跡は見えないが、この船越も大津波の被害を大きく受けていました



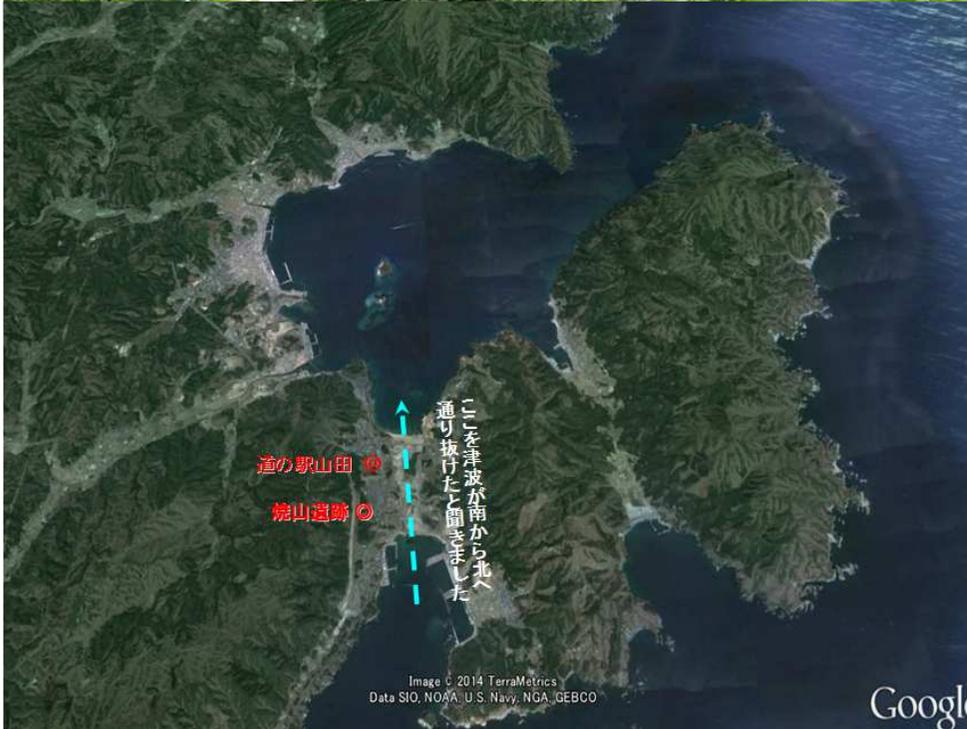
発掘調査が進む古代の製鉄遺跡

焼山遺跡





山裾の高台を走る国道45号線から眺める船越半島の付け根 2014.6.8.





道の駅山田 ◎
焼山遺跡 ◎

「こ」を津波が南から北へ
通り抜けたと聞きました

津波に襲われた田の浜集落
大津波の痕跡がくっきりと

Google画像でみた津波の傷跡

Google





国道45号線の高台から見る船越半島の付け根 2014.6.8.

左側 北: 浦の浜・山田湾 右側 南: 田の浜・船越湾 中央の建物は津波でやられ、閉鎖中の鯨と海の科学館



復旧の見込みがまだたっていない山田線の大浦踏切 2014.6.8.
国道45号線から西へ半島の付け根の浜に降りる途中で



大浦の山田線踏切のすぐ脇には 仮設の鯨と海の博物館の収蔵庫が建てられ、
背後に半島付け根の南側部が見えている



山裾の高台を走る国道45号線から西の船越半島の方へ下って
山田湾と船越湾に挟まれた狭い低地の浜に降りると こんな風景が・・・
更地・かさ上げされた浦の浜から南西側船越半島の田の浜を遠望 2014.6.8.



更地・かさ上げされた浦の浜遠望 2014.6.8.



船越半島 浦の浜から東側船越半島の付け根を眺める 写真 左:南 右:北



浦の浜北側に広がる山田湾 浜には多くはありませんが、砂鉄がありました また 遠くに無数の養殖筏が浮かんでいます



船越半島 浦の浜から西側 船越半島を眺める 写真 左:北 右:南

2.3. 道の駅山田から少し国道を戻って 船越の集落から焼山遺跡へ



国道45号線の下の方へ降りる崖の途中にある鯨と海の博物館は現在閉鎖中
すぐ上の影下に、仮設の収蔵庫が建てられ、この周辺の遺跡遺物整理の作業がされていました



山田湾

道の駅山田 ◎

焼山遺跡 ◎

船越湾





国道45号線沿い 道の駅のすぐ南側の山裾 高台移転のための造成地
この造成地の右手山際へ越えたところが、「焼山遺跡」だった

2014.6.8.



山裾の高台を走る国道45号線から眺める船越半島の付け根 2014.6.8.



国道45号線沿い 左: 道の駅のすぐ南側 高台移転のための造成地 右: 道の駅「やまだ」



国道45号線沿い 道の駅のすぐ南側の山裾 高台移転のための造成地 2014.6.8.
この造成地の右手山際へ越えたところが、「焼山遺跡」だった



国道を少し戻って、船越の集落の中 郵便局の所から東へ入る坂を登ってゆくと
左に船越支所 右手に造成地が見えてくる 2014.6.8.



古代の製鉄遺跡「焼山遺跡」緊急発掘調査現場前 2014.6.8.

船越支所に声をかけようと立ち寄りましたが、日曜日でクローズ。そのまま坂を少し登ると遺跡の前へ出た。



焼山遺跡前から登ってきた坂を振り返ると船越半島が霧に……2014.6.8.



古代平安時代の製鉄遺跡「焼山遺跡」
2.4. 2014年緊急発掘調査現場見学 2014.6.8.



平安時代10後半から11世紀の製鉄遺跡「焼山」遺跡 2014年発掘現場 2014.6.7.



2014年発掘現場 この丘の右手下側のすでに埋め戻されている場所が2013年の発掘現場のようだ



2014年発掘現場

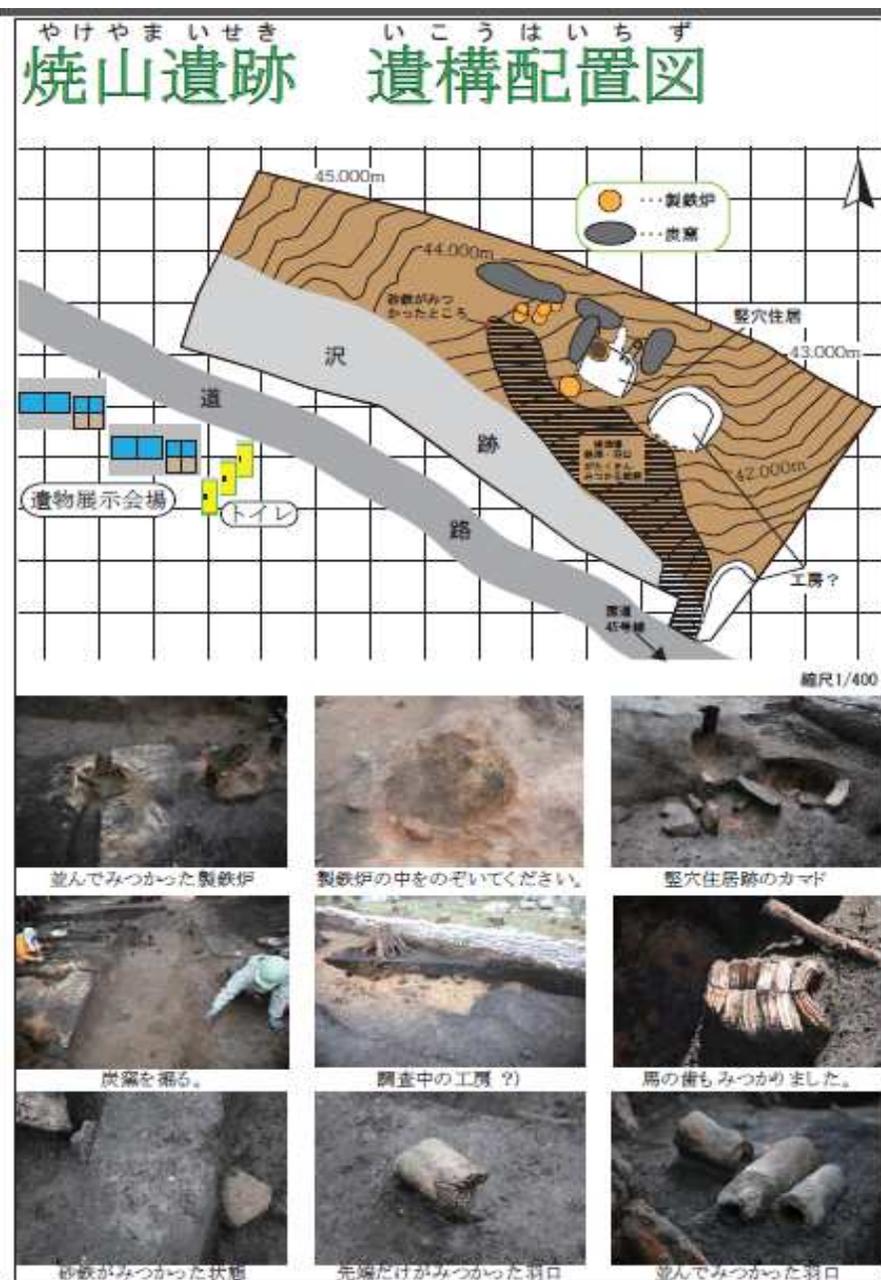
2013年発掘現場



古代の製鉄遺跡 山田町船越 焼山遺跡 2014.6.7.

Google

2013年発掘調査部の遺構配置図



2013年の発掘調査まとめ 2013.11.2.現説資料より

◎ 焼山遺跡は古代 平安時代 10世紀後半から11世紀頃の鉄生産にかかわる遺跡で、製鉄炉を築き、炭を焼き、砂鉄を原料に製鉄を行っていた。

◎ 出土した遺構

竪穴住居(古代)	1 棟	工房?	2 棟
製鉄炉	7 基	炭窯	4 棟
排滓場	1ヶ所		

◎ 出土した遺物

鉄滓	多数	40箱	土師器片	1袋
羽口	多数	3箱	縄文土器片	1袋
砂鉄		1kg	石器	2点
釘		1点		

◎ トピックス

1. 羽口を装着したままの状態で見つかった製鉄炉1基がある。

2. 製鉄炉の下には乾燥のため炭を敷き、焼かれている。

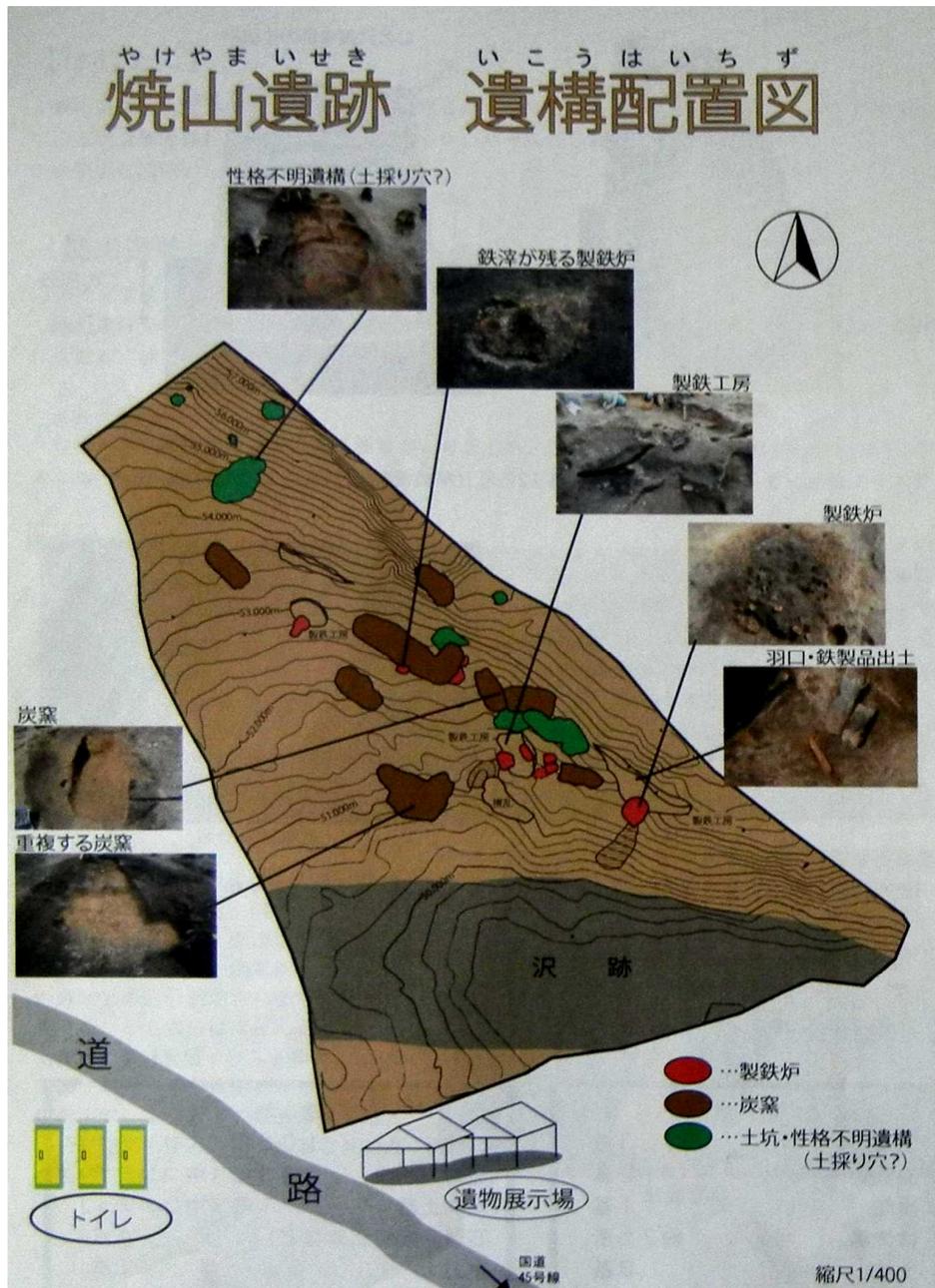
[製鉄炉の大きさの1例]

直径約50cm 内径約30cmの円形の炉でふいご座はみつかっていないと聞きました。

羽口がラッパ状大型で、一本差し込んだままの状態で見つかった製鉄炉から見て、竪型炉だろうが、ふいご座が見つからぬことを含め、即断はできぬ。

炭焼窯という想像しますが、窯跡の穴が浅井三津から、ここでは平地に穴を掘って薪を組み、上を土で完全に覆う伏せ焼と呼ばれる簡単な方法だったようだ。

2014年発掘調査部の遺構配置図



2014年の発掘調査まとめ 2014.5.31.現説資料より

◎ 焼山遺跡は古代 平安時代 10世紀後半から11世紀頃の鉄生産にかかわる遺跡で、製鉄炉を築き、炭を焼き、砂鉄を原料に製鉄並びに鉄器製造を行う鉄生産工房。

◎ 出土した遺構

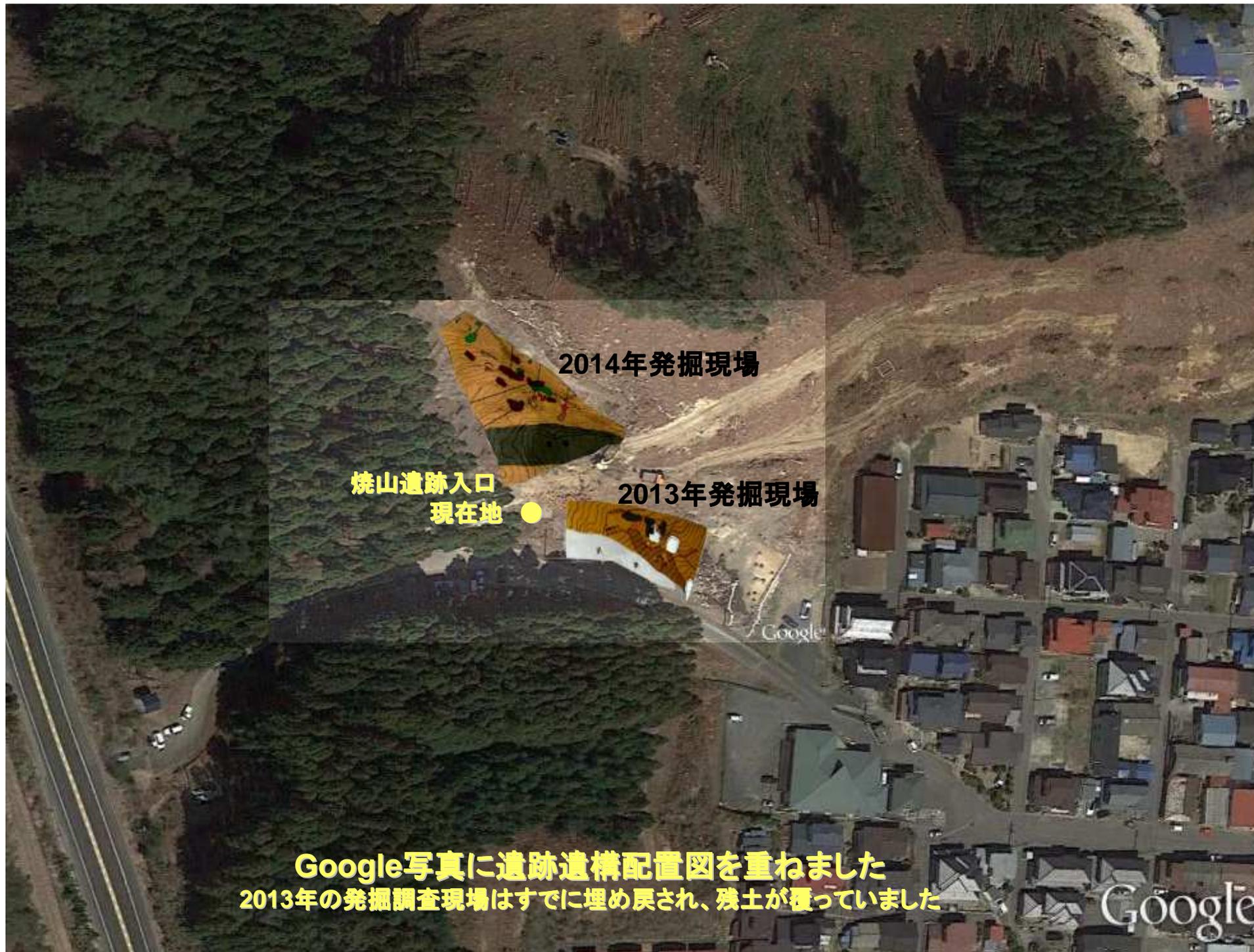
工房	3棟
製鉄炉	12基
炭窯	11基
排滓場	約2カ所
土坑	8基

◎ 出土した遺物

鉄滓	100箱 (大コンテナ)
羽口	20箱 (中コンテナ)
縄文土器	1箱 (中コンテナ)
石器 (磨製石斧など)	4点
小刀	1点

◎ トピックス

- 前年確証がとれなかったが、本年は明確に**鉄生産工房と言える工房跡が3棟出土**。
ここからは製鉄炉・鍛冶作業場・小刀などが出土。
- 製鉄炉は12基見つかっているが、いずれも**竪型炉**と見える。
- 炭窯が11基見つかっている。いずれも**重畳**大量の炭を必要としたことがうかがえる



2014年発掘現場

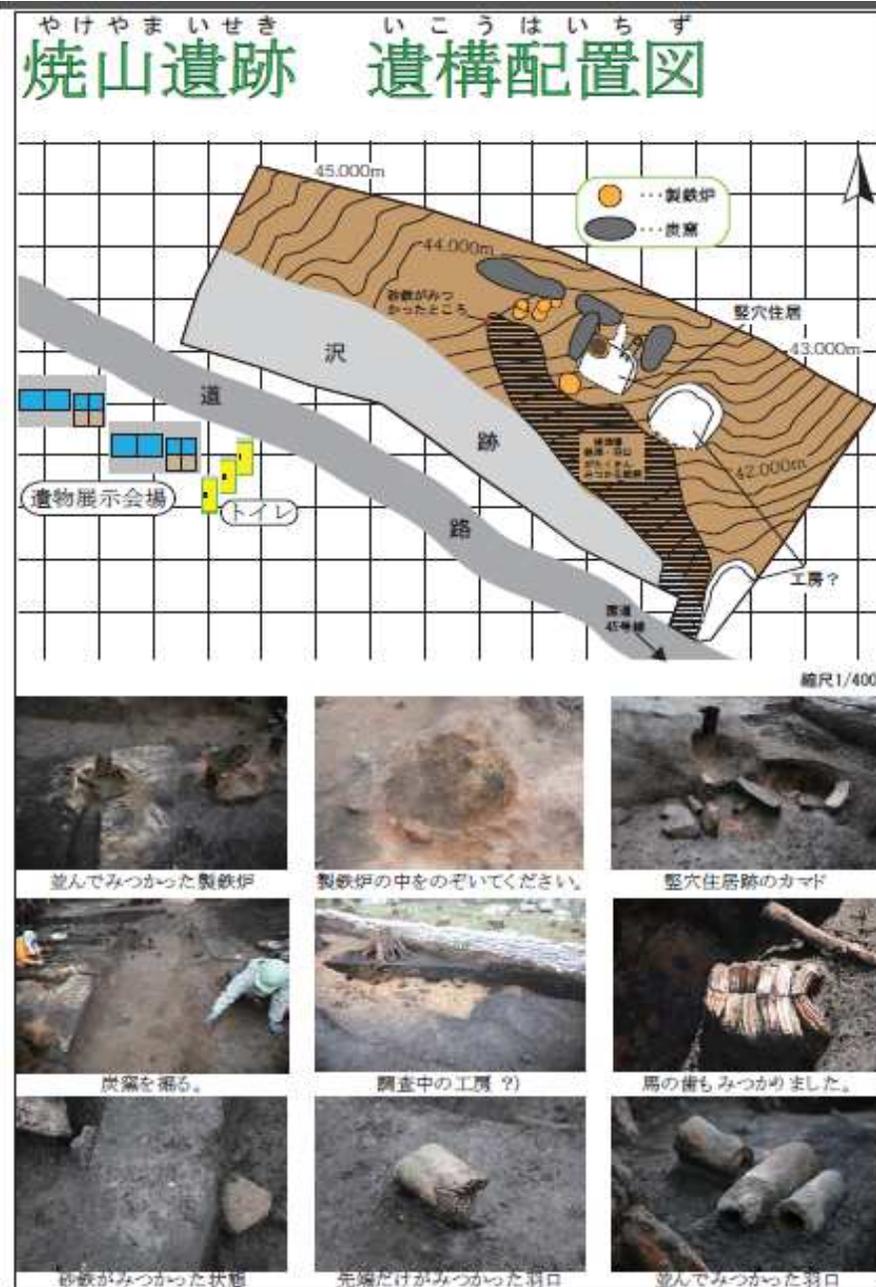
焼山遺跡入口
現在地 ●

2013年発掘現場

Google写真に遺跡遺構配置図を重ねました
2013年の発掘調査現場はすでに埋め戻され、残土が覆っていました

Google

2013年発掘調査部の遺構配置図



2013年の発掘調査まとめ 2013.11.2.現説資料より

◎ 焼山遺跡は古代 平安時代 10世紀後半から11世紀頃の鉄生産にかかわる遺跡で、製鉄炉を築き、炭を焼き、砂鉄を原料に製鉄を行っていた。

◎ 出土した遺構

竪穴住居(古代)	1棟	工房?	2棟
製鉄炉	7基	炭窯	4棟
排滓場	1ヶ所		

◎ 出土した遺物

鉄滓	多数	40箱	土師器片	1袋
羽口	多数	3箱	縄文土器片	1袋
砂鉄		1kg	石器	2点
釘		1点		

◎ トピックス

1. 羽口を装着したままの状態で見つかった製鉄炉1基がある。

2. 製鉄炉の下には乾燥のため炭を敷き、焼かれている。

[製鉄炉の大きさの1例]

直径約50cm 内径約30cmの円形の炉でふいご座はみつかっていないと聞きました。

羽口がラッパ状大型で、一本差し込んだままの状態で見つかった製鉄炉から見て、竪型炉だろうが、ふいご座が見つからぬことを含め、即断はできぬ。

炭焼窯という想像しますが、窯跡の穴が浅井三津から、ここでは平地に穴を掘って薪を組み、上を土で完全に覆う伏せ焼と呼ばれる簡単な方法だったようだ。

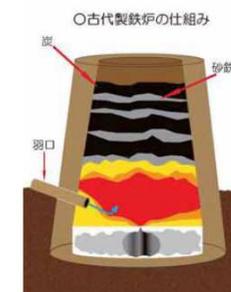


羽口が差し込まれたまま出土した製鉄炉 2013.11.2. 現地説明資料より

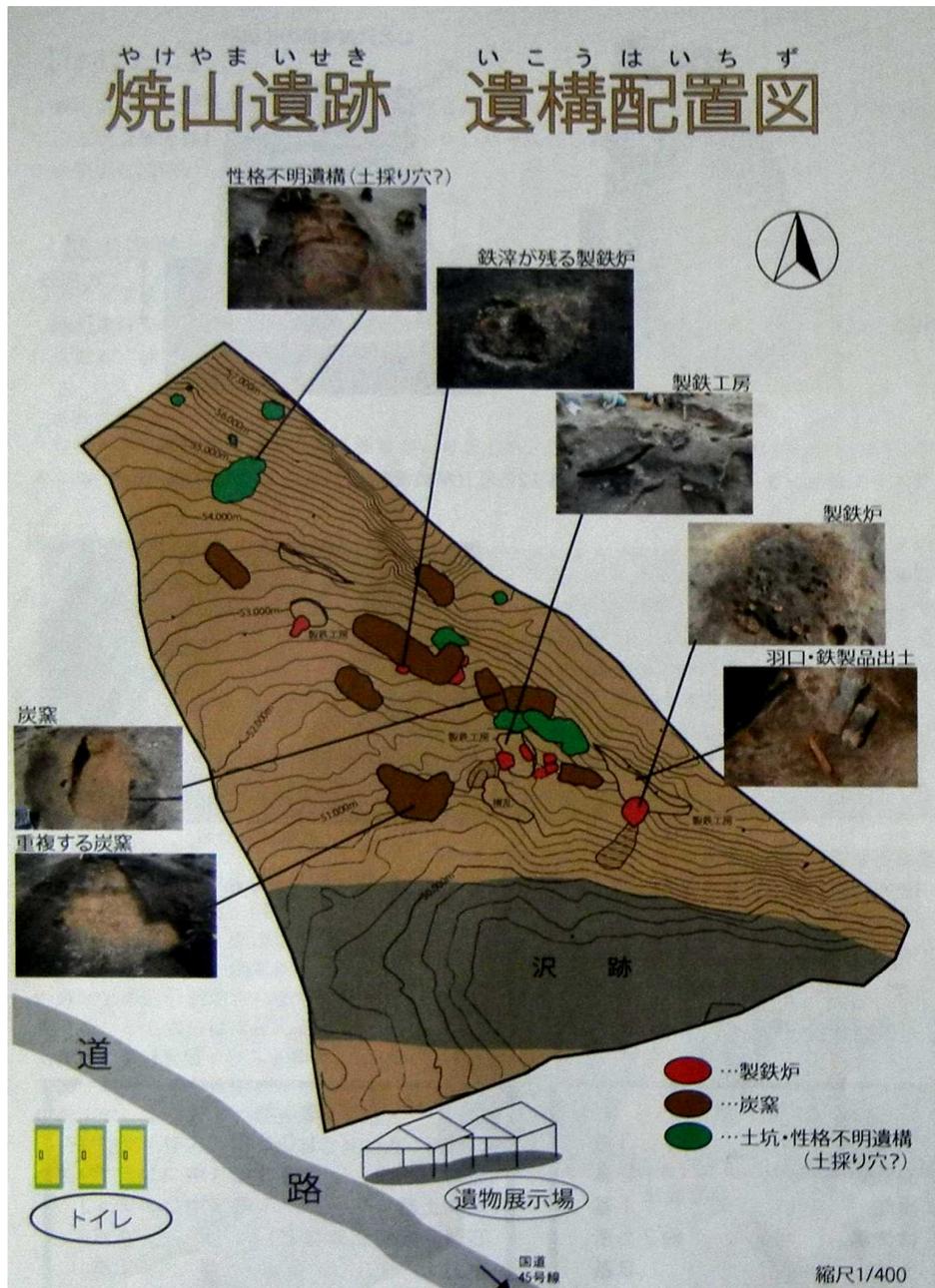
直径が70cmほどの製鉄炉跡で、写真の赤い○の部分には羽口が装着されている。
このような状態で出土することは珍しく非常に貴重な製鉄炉。
羽口の傾き、装着位置など重要な情報が得られ、
今後の調査で鉄生産に関する様々な謎がさらに明らかになると思われる



製鉄作業想像図



2014年発掘調査部の遺構配置図



2014年の発掘調査まとめ 2014.5.31.現説資料より

◎ 焼山遺跡は古代 平安時代 10世紀後半から11世紀頃の鉄生産にかかわる遺跡で、製鉄炉を築き、炭を焼き、砂鉄を原料に製鉄並びに鉄器製造を行う鉄生産工房。

◎ 出土した遺構

工房	3棟
製鉄炉	12基
炭窯	11基
排滓場	約2カ所
土坑	8基

◎ 出土した遺物

鉄滓	100箱 (大コンテナ)
羽口	20箱 (中コンテナ)
縄文土器	1箱 (中コンテナ)
石器 (磨製石斧など)	4点
小刀	1点

◎ トピックス

1. 前年確証がとれなかったが、本年は明確に**鉄生産工房と言える工房跡が3棟出土**。
ここからは製鉄炉・鍛冶作業場・小刀などが出土。
2. 製鉄炉は12基見つかっているが、いずれも**竪型炉**と見える。
3. 炭窯が11基見つかっている。いずれも**重畳**大量の炭を必要としたことがうかがえる



焼山遺跡発掘現場

鉄生産工房と製鉄炉

2014.6.8.



製鉄炉跡 床面に見えるのは鉄滓
当時の鉄生産の様子が伺える



製鉄炉 直径約150cm 内径約100cm
左手に流れ出した鉄滓がみられる



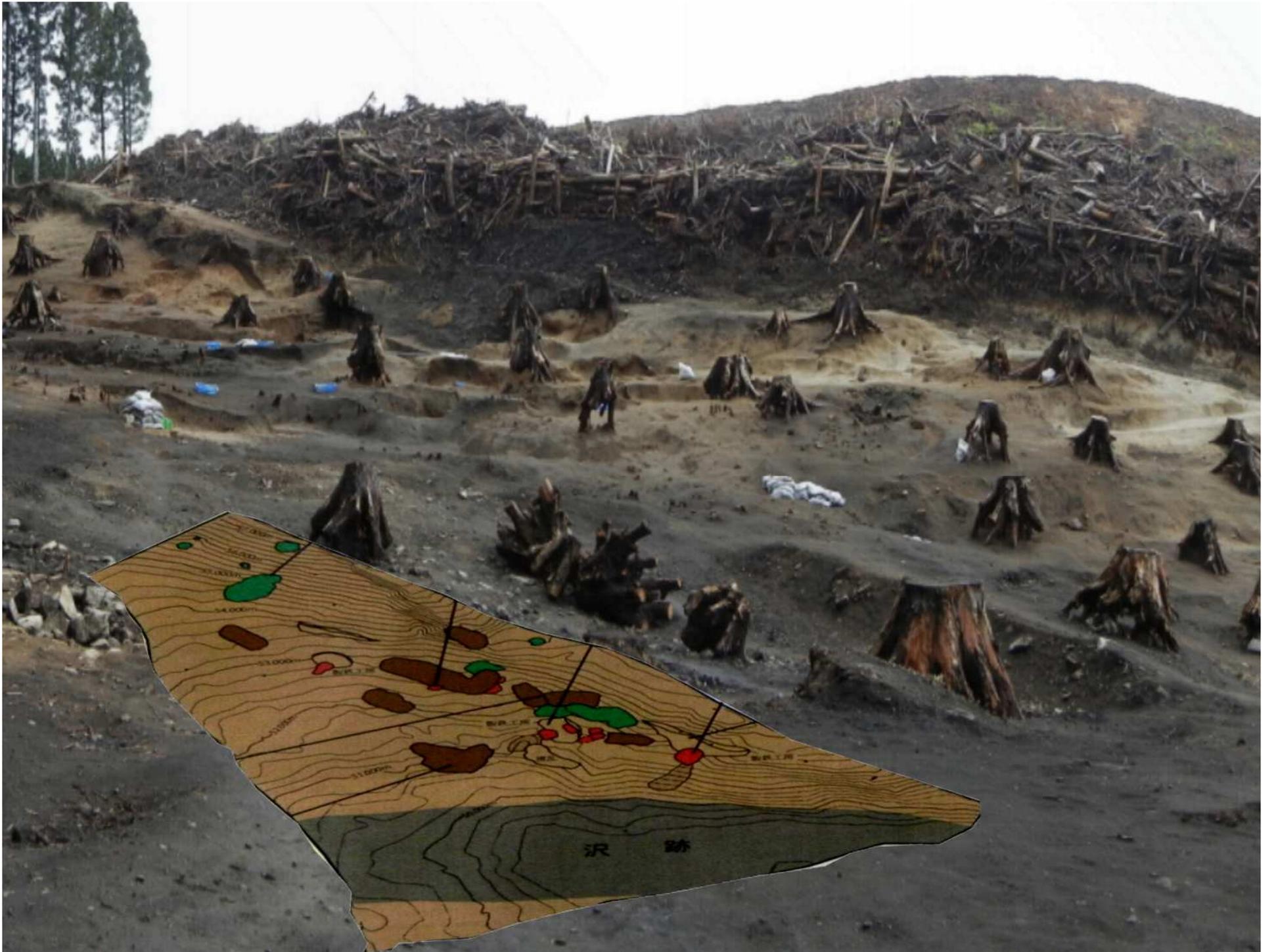
山田町観光協会「とことこ」日記より



写真は製鉄炉と工房跡 奥の羽口が並んでいるところ(赤い○)が工房の壁で手前が工房内にある状態の良い製鉄炉。製鉄炉には溝のような切れ込み(青い○)が見えます。おそらく羽口(製鉄炉に空気を送り込むための土製の管)が設置されていたものと思われる。
(平成26年6月13日現在) 《 いわて 調査情報 焼山遺跡 》より

誰もいない遺跡内の遺構・遺物出土地の近くまで少し入れてもらって、古代の製鉄跡を見学する









焼山遺跡発掘現場1 鉄生産工房と製鉄炉 2014.6.8.



焼山遺跡発掘現場 2 東側から 鉄生産工房跡周辺を眺める

鉄滓を入れた箱がいくつも置かれている。また、奥に西側の船越集落 半島の付け根が見渡せる



焼山遺跡発掘現場 3 東側から 鉄生産工房跡周辺を眺める

鉄滓を入れた箱がいくつも置かれている。また、奥に西側の船越集落 半島の付け根が見渡せる



春を背負って

焼山遺跡発掘現場 4



焼山遺跡発掘現場 5



焼山遺跡発掘現場 6 出土品

インターネットからの採取も含む



焼山遺跡の丘の一番上から、船越の集落を眺める 2014.6.8.

右手手前の道路際に見える残土・樹木置場になっているところが、2013年度の発掘調査場所のようだ。

眼前には数多くの発掘跡、数々の遺構、製鉄炉跡・炭窯跡と思われる場所があるのですが、それらが、互いに重なっていて、素人目には混然としていて、はっきりしない。また、炉跡が円形に近く、太い羽口が出土していることなどから、製鉄炉は縦型炉と思われるのですが、全く鞆座が見つからぬ。

製鉄炉が重なり合っているといっても、これだけ多くの製鉄炉が出土しているのに不思議である。

平安時代の福島の武井・金沢製鉄遺跡群の製鉄炉や新潟柏崎 軽井川南製鉄遺跡群の遺跡でも、製鉄炉のそばに足踏み鞆の鞆座が座っている。

また、もうひとつ 至る所に黒ずんだ土部があり、製鉄炉の直ぐ傍に炭焼き窯がいくつも見られるのにもびっくり。現説の資料他 貰っているのですが、何か様子が違っている。これが、東北の製鉄遺跡遺構なのだろうか……

即断はできないのですが、古代 この地域独特の製鉄炉技術が受け継がれてきたのだろうか??
そして、それは 蝦夷の時代から受け継がれてきた技術だろうか……

いま、この三陸では 数多くの遺跡が緊急発掘調査されており、それらがまとまってくれば、この「蝦夷の鉄の謎」も見えてくるかもしれない。

発掘調査が進む古代の製鉄遺跡にたたずんで、古代 この三陸が育てた鉄の文化
三陸沿岸のIron Roadの面白さ。

今後の調査結果に夢を託して、10時前 遺跡を後にしました。

この沿岸は宮古花崗岩帯。浜には砂鉄があるだろう。
次の宮古への代行バスまでは 時間もたっぷりあるので、
この船越の浜に降りて、砂鉄を探そうと……

2014.6.8 霧雨の中 古代の製鉄遺跡 山田町船越 焼山遺跡を見学して

Mutsu Nakanishi

古代の製鉄遺跡「焼山遺跡」発掘現場を訪ねて まとめ 2014.6.8

三陸沿岸のIron Roadを訪ねるWalkで、一番楽しみにしていた古代蝦夷の時代の鉄につながるかもしれない三陸沿岸の古代製鉄遺跡の発掘調査現場山田町船越「焼山遺跡」の見学。でも、津波の被災地での緊急発掘調査現場でもあり、釜石から山田町へ至る道中で見た被災地は3年経って、インフラ整備が進んでいるとはいえ、復興はまだ手が付き始めたばかり。そんな製鉄遺跡発掘現場の見学。しっかり 見て帰ろうと。

1. 見学した「焼山遺跡」は10世紀後半から11世紀頃 平安時代の製鉄遺跡で、数多くの製鉄炉・炭焼窯と共に、少なくとも3棟の製鉄工房跡が見つかっている。砂鉄や黒々とした木炭粉で黒くなった地面や鉄滓が遺跡内至る所に散在し、大量の鉄滓や多数の大型羽口なども出土している。この遺跡の性格については、まだこれからの解析を待たねばならぬが、周辺で採取された砂鉄を原料とし、すぐ近くの山の樹木から炭を焼き、この場所で一貫した鉄生産が行われた鉄生産工房と推定されている。
2. 出土した製鉄炉は重畳しているものも多いが、楕円形の竪型炉とみられ、トピックスとして羽口が差し込まれたままの製鉄炉が見つかっており、この地域の製鉄炉の性格を知る大きな手口である。10世紀後半から11世紀というと 東北ではすでに足踏み鞆があらわれており、また出土した羽口を見ると羽口を通して大量送風がなされていたはずであるが、鞆座がみつからない。
3. 生産工房に近接して炭焼窯が多数ある竪型炉の鉄生産工房。この工房の形式も気になるのですが、多数の製鉄炉跡遺構が出土しているにもかかわらず、送風ふいごの形式がクリアーにならぬ。当時の西からの大型箱型炉に据え付けられている足踏みふいご座が見つからぬ。この山田で現在発掘調査中の田之浦館遺跡の製鉄炉も同じだという。これは、この山田周辺 三陸沿岸独自の製鉄炉なのだろうか・・・そうなると「蝦夷の時代」からはだいぶ後ろではあるが、この山田町からも蕨手刀も出土しており、大和が持ち込んだ製鉄技術とは異なる独自の製鉄技術が継承されてきたともいえ、仙人峠の名前が示す、南北に伸びた険しい北上山地で隔てられた三陸沿岸は 大量の鉄資源を有し、大和に対抗した蝦夷たちの鉄生産基地。大和がほしがった「金山」だったのかも・・・夢が広がってくる。

その真偽が判る解析はまだ これからですが、

「古代 蕨手刀を武器に大和と戦った蝦夷たちの鉄の隠れ生産基地。それが三陸沿岸のIron Road」との夢を益々広げてくれた古代製鉄遺跡。それが山田町船越の「焼山遺跡」発掘調査現場だったと。霧雨の中でしたが、本当にうれしい久々の製鉄遺跡発掘現場見学でした。

これだけ 沢山の製鉄遺跡がある山田町 「浜にゆけば 砂鉄がきっとあるはず」と 発掘現場を後に船越の浜に向かいました。

2.5 道の駅「やまだ」へ戻って 船越半島の付け根「浦の浜」へ降りる

古代の製鉄遺跡が300以上ある山田町 宮古花崗岩帯から流れ出た砂鉄が浜にあると



復興事業推進で発掘調査が進む 古代の製鉄遺跡跡 山田町船越 焼山遺跡 2014.6.7.



砂鉄浜 焼山遺跡の下にある船越半島山田湾に面した浦の浜 2014.6.7.



山田湾

浦の浜

道の駅山田 ◎

焼山遺跡 ◎

田之浜

船越湾



発掘調査が進む古代の製鉄遺跡

焼山遺跡 ○

道ノ駅やまた ◎

船越

浦の浜

船越

海蔵寺

鯨と海の科学館

草木山

南長林団地

道の駅

山

国道45号線の道の駅「やまだ」のすぐ横から西へ、浜へ下って行く道を少し行くと復旧がまだ手つかずの山田線の大浦未踏切。
ここから住宅の横を抜けて少し行けば、浦の浜である







大浦踏切から「浦の浜」が広がる平地部において、船越半島側を眺める 2014.6.8.

津波が右から左へ通り抜けた跡だろう。

盛土でかさ上げされた更地が半島側の浦の浜の集落まで続いている。

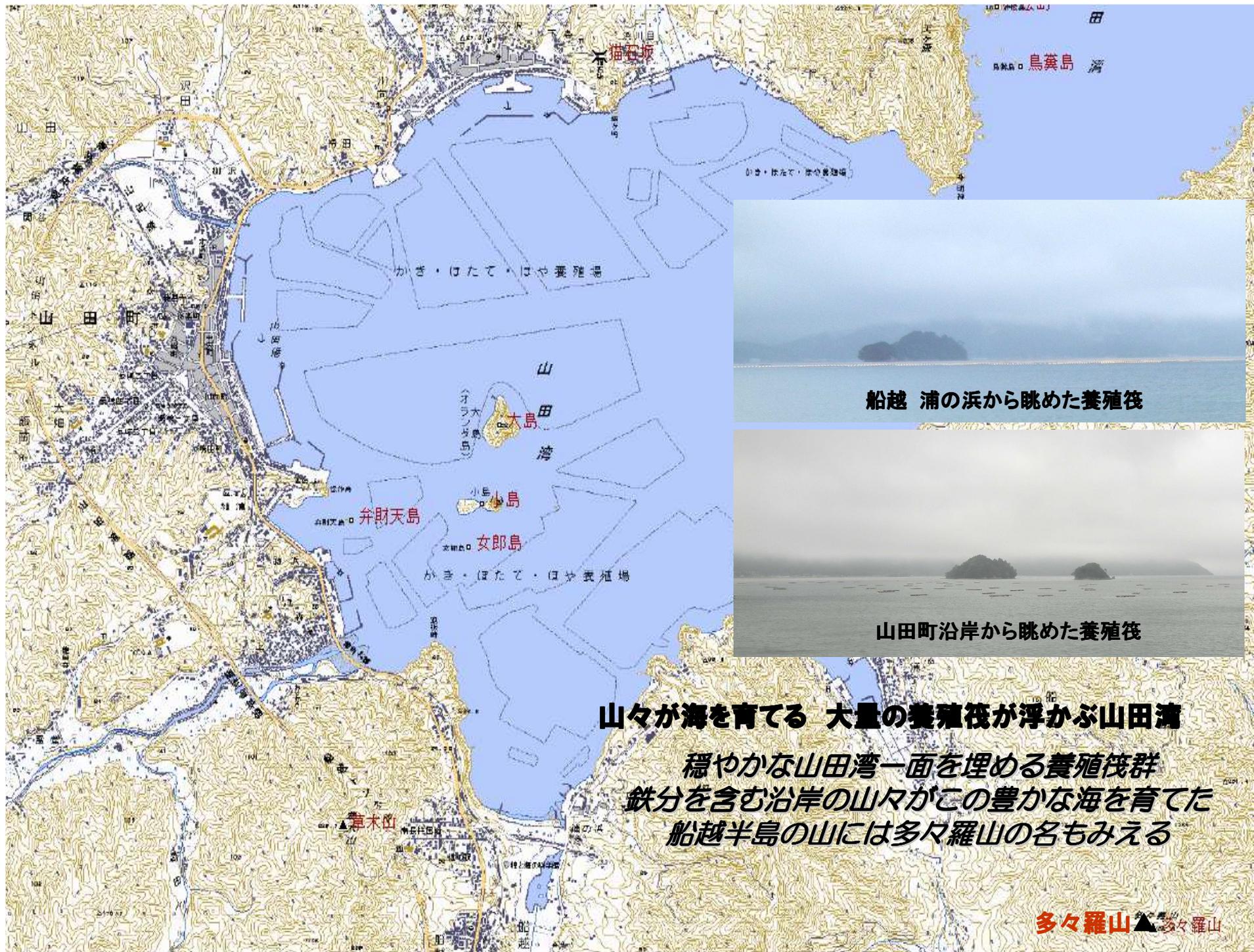


浦の浜から 盛土・高架橋の奥に今歩いてきた道が見えている 2014.6.8.



船越半島 浦の浜から眺める山田湾 2014.6.8.

浜にはうっすら砂鉄が文様を描き、山田湾水平線には 山田湾に浮かぶ無数の養殖筏が一筋の白い線に



鳥糞島

船越

かき・はたて・ほたて養殖場

山田湾

弁財天島

小島

女郎島

かき・はたて・ほたて養殖場

山々が海を育てる 大量の養殖筏が浮かぶ山田湾

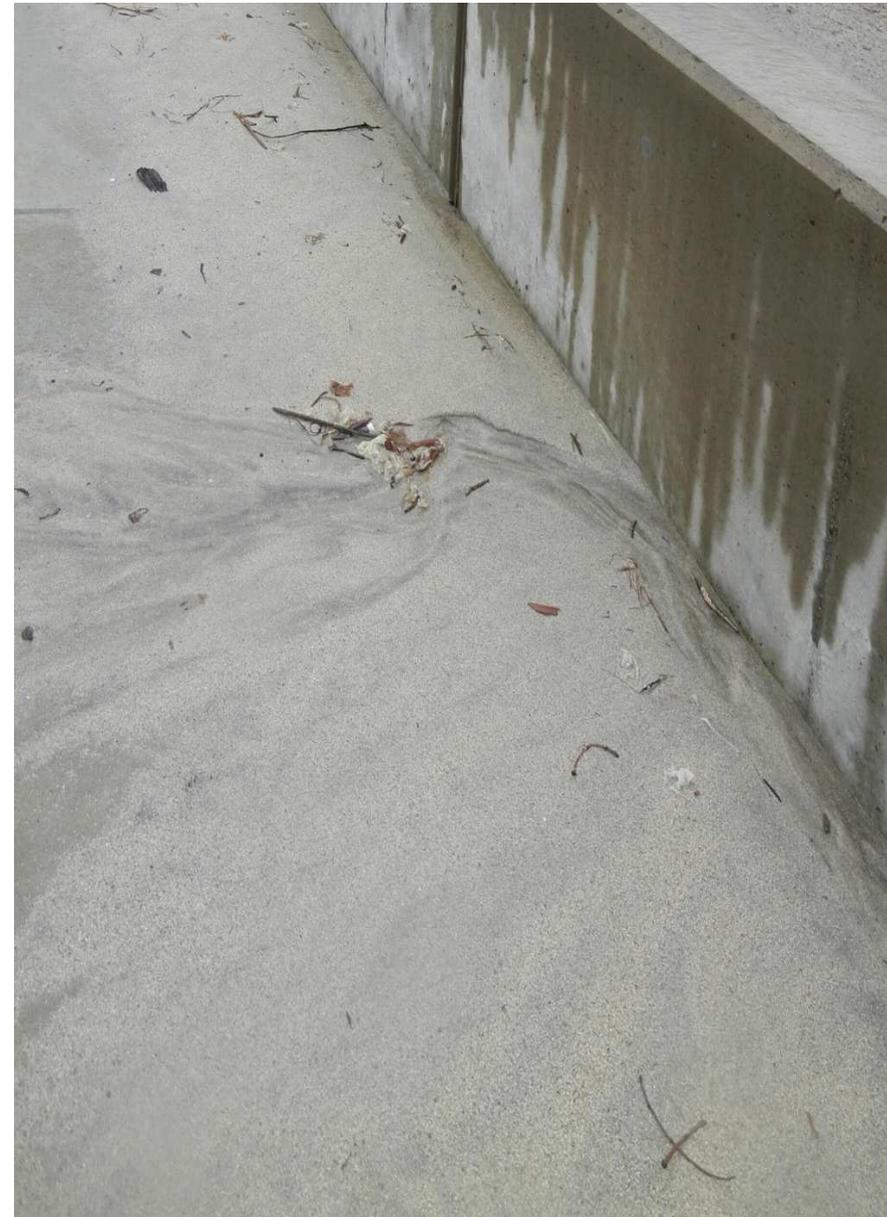
穏やかな山田湾一面を埋める養殖筏群
鉄分を含む沿岸の山々がこの豊かな海を育てた
船越半島の山には多々羅山の名もみえる

多々羅山 ▲ 多々羅山



船越半島 浦の浜

薄ら砂鉄が文様を描いている 2014.6.8.



船越湾側田之浜では海が荒れた後、大量の砂鉄が海岸のコンクリート堤に残っていると聞きました



船越半島 浦の浜から東側船越半島の付け根を眺める 写真 左:南 右:北



浦の浜北側に広がる山田湾 浜には多くはありませんが、砂鉄がありました また 遠くに無数の養殖筏が浮かんでいます



船越半島 浦の浜から西側 船越半島を眺める 写真 左:北 右:南

10:30 浜から道の駅に帰るとまた雨は土砂降りに

10:40発の代行バスがあると思っていましたが、日曜日で運休。11:45までバスがないのに、はっと気づく。道

の駅の中にはいたり、観光案内所のひとたちとしゃべったり……

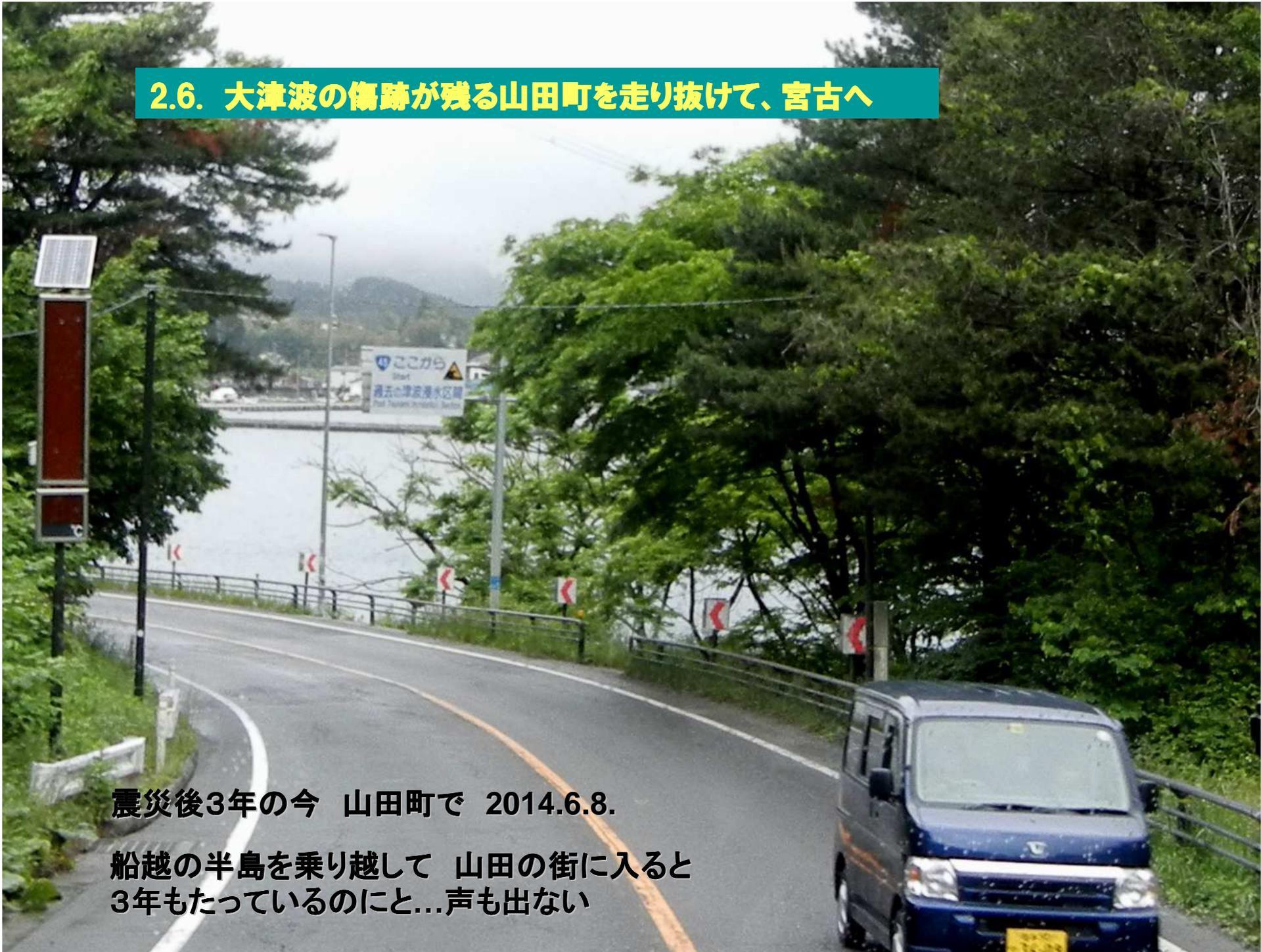
時間をつぶして、やっと11:45発の代行バスに乗り込み、山田の街を走り抜けて宮古へ。

宮古につくのは12:49。

午後は宮古から、三陸鉄道に乗って岩泉・普代へ



2.6. 大津波の傷跡が残る山田町を走り抜けて、宮古へ



震災後3年の今 山田町で 2014.6.8.

船越の半島を乗り越して 山田の街に入ると
3年もたっているのにと...声も出ない









「海はよみがえったね!」・「応援しているよ!! がんばって」と 2014.6.8



鳥糞島

船越坂

かき・はたて・ほろ表殖場

山

大島

海

弁財天島

小島

女郎島

かき・はたて・ほろ表殖場

草木山

山々が海を育てる

大量の養殖筏が浮かぶ山田湾

穏やかな山田湾一面を埋める養殖筏群

鉄分を含む沿岸の山々がこの豊かな海を育てた

船越半島の山には多々羅山の名もみえる

多々羅山 ▲ 多々羅山



岩手・山田湾内をうめるカキ養殖いかだ群に人影 養殖生産が始まっている
沈みがちな気持ちを明るくしてくれる街で出会った人たち

「海はよみがえったね!」-「応援しているよ!! がんばって」と 2014.6.8



12:45 土砂降りの雨の中 宮古駅に到着 2014.6.8.

古代の製鉄遺跡「焼山遺跡」発掘現場を訪ねて まとめ

三陸沿岸のIron Roadを訪ねるWalkで、一番楽しみにしていた古代蝦夷の時代の鉄につながるかもしれない三陸沿岸の古代製鉄遺跡の発掘調査現場山田町船越「焼山遺跡」の見学。でも、津波の被災地での緊急発掘調査現場でもあり、釜石から山田町へ至る道中で見た被災地は3年経って、インフラ整備が進んでいるとはいえ、復興はまだ手が付き始めたばかり。そんな製鉄遺跡発掘現場の見学。しっかり 見て帰ろうと。

1. 見学した「焼山遺跡」は10世紀後半から11世紀頃 平安時代の製鉄遺跡で、数多くの製鉄炉・炭焼窯と共に、少なくとも3棟の製鉄工房地が見つかっている。砂鉄や黒々とした木炭粉で黒くなった地面や鉄滓が遺跡内至る所に散在し、大量の鉄滓や多数の大型羽口なども出土している。この遺跡の性格については、まだこれからの解析を待たねばならぬが、周辺で採取された砂鉄を原料とし、すぐ近くの山の樹木から炭を焼き、この場所で一貫した鉄生産が行われた鉄生産工房と推定されている。
2. 出土した製鉄炉は重畳しているものも多いが、楕円形の竪型炉とみられ、トピックスとして羽口が差し込まれたままの製鉄炉が見つかり、この地域の製鉄炉の性格を知る大きな手口である。10世紀後半から11世紀というと 東北ではすでに足踏み鞆があらわれており、また出土した羽口を見ると羽口を通して大量送風がなされていたはずであるが、鞆座が見つからない。
3. 生産工房に近接して炭焼窯が多数ある竪型炉の鉄生産工房。この工房の形式も気になるのですが、多数の製鉄炉跡遺構が出土しているにもかかわらず、送風ふいごの形式がクリアーにならぬ。当時の西からの大型箱型炉に据え付けられている足踏みふいご座が見つからぬ。この山田で現在発掘調査中の田之浦館遺跡の製鉄炉も同じだという。これは、この山田周辺 三陸沿岸独自の製鉄炉なのだろうか・・・そうすると「蝦夷の時代」からはだいぶ後ろではあるが、この山田町からも蕨手刀も出土しており、大和が持ち込んだ製鉄技術とは異なる独自の製鉄技術が継承されてきたともいえ、仙人峠の名前が示す、南北に伸びた険しい北上山地で隔てられた三陸沿岸は 大量の鉄資源を有し、大和に対抗した蝦夷たちの鉄生産基地。大和がほしがった「金山」だったのかも・・・夢が広がってくる。
4. 三陸沿岸の山々にある「鉄」が豊かな海を育てる 山田湾を埋め尽くす養殖筏群にそれを感じました

その真偽が判る解析はまだ これからですが、

「古代 蕨手刀を武器に大和と戦った蝦夷たちの鉄の隠れ生産基地。それが三陸沿岸のIron Road」との夢

そんなロマンを益々広げてくれた古代製鉄遺跡。それが山田町船越の「焼山遺跡」発掘調査現場だったと。

霧雨の中でしたが、本当にうれしい久々の製鉄遺跡発掘現場見学でした。

また、三陸の復興はまだこれから そんな中 山田湾を埋め尽くす養殖群など新しい地道な展開が始まっている。三陸で暮らす人たちの元気な姿を垣間見ることでもでき、風化させることなく しつかり応援せねばと。



復興事業推進で発掘調査が進む 古代の製鉄遺跡跡 山田町船越 焼山遺跡 2014.6.7.



砂鉄浜 焼山遺跡の下にある船越半島山田湾に面した浦の浜 2014.6.7.

2. 発掘中の古代の製鉄遺跡 山田町船越「焼山遺跡」発掘現場を訪ねる

鉄のロマン「三陸は蝦夷の鉄生産工房地ではないか？」そんな痕跡を求めて 2014.6.8.

【参考資料】

1. 岩手県立埋蔵文化センター所報「わらびて」129号 2014.2.28.
2. 岩手県立埋蔵文化センター 焼山遺跡 2014.5.31. 現地説明資料
3. 岩手県立埋蔵文化センター 焼山遺跡 2013.11.2 .現地説明資料
4. 岩手県立埋蔵文化センター 発掘! 岩手の遺跡 焼山遺跡 2015.11.10. ほか
5. 山田町観光協会 公式ブログ 山田とことこ日記 焼山遺跡
6. 弥生文化博物館考古学セミナー 岩手県での発掘調査 災害復興のために
講演スライド& 資料
◎ 広瀬時習氏 「沢田Ⅲ遺跡 - 鉄生産関連遺構の調査 -」 h26.6.28.
◎ 三好孝一氏 山田町 田之浜館 現地説明会資料 h25.8.2.

【和鉄の道・Iron Road by Mutsu Nakanishi】

1. 福島県武井製鉄遺跡群の近接する沢入B・大清水B製鉄遺跡
古代たたら製鉄の革新技術「踏み鞆」の実用展開のさきがけか?? 2013.8.
-金沢・武井製鉄遺跡群に出現した踏み鞆付き竪型炉-
2. 黄金吹く行方製鉄遺跡群 福島県 原町 蝦夷征伐の兵器庫 金沢製鉄遺跡 1999.11
3. 田舎なれども南部の国は西も東も金の山 岩手県南部 蝦夷の鉄 北上山地 大鎚・釜石へ 2002.10
4. 岩手県北上川流域の製鉄地帯 一関博物館 蝦夷の蕨手刀と日本刀のルーツ 舞草刀. 2001.10.
5. 蝦夷の鉄・東北 和鉄の道 東北地方 和鉄の道 9編 取りまとめ 2004.1.

三陸沿岸の Iron Road

三陸は古代 藤手刀を手に戦った蝦夷の兵器庫・製鉄地帯
古代からたたら製鉄跡が点々と続く三陸海岸
山には若鉄、川には餅鉄、浜には砂鉄、砂鉄浜が点々と
久慈から八戸には大量の下バ砂鉄層もある
これは海底に堆積した砂鉄が隆起して出現したもの
また、釜石の山中、大楢・楢野は洋式高炉が立ち並ぶ
近代製鉄発祥の地
そして、三陸の海は魚の宝庫
三陸の森が海を育てるといいますが、
その一因に豊富な鉄の流れ込みがあるという

